

件名：	3.11 震災対応総合訓練について
担当課：	消防本部 救急救助課 救急救助担当（電話：083-932-2604）

1 目的

この「3.11 震災対応総合訓練」は、東日本大震災の記憶を風化させることなく震災の教訓を将来に繋げるため、地震発生から8年が経過した平成31年3月に実施するもので、地震をはじめとした大規模災害に対応するための「自助」「共助」「公助」の連携や、倒壊した建物や土砂災害現場での救助技術の確立に向けた、これまでの訓練と取組の成果を結集した実動訓練です。

2 日時

平成31年3月16日（土） 9時30分から11時00分まで

3 場所

山口市消防団小郡訓練場（山口市小郡新町5丁目3360-1）

4 実施内容及び参加機関（6機関及び市民10人、計約100人規模）

実施内容	参加機関	関連する取組
セルフレスキュー訓練	市民、消防団（学生）	セルフレスキュー ※1
震災対応訓練	重機民間事業者 消防防災航空センター 山口市防災危機管理課 消防団（救助部隊） 常備消防 （特別救助隊・救助隊）	消防団救助部隊 ※2 民間事業者との重機協定 ※3 都市型搜索救助 ※4
応急救護所運用訓練	済生会山口総合病院 消防団（予防隊） 常備消防（救急隊）	救急車医師同乗システム ※5

※については、「参考資料」参照

5 想定

本市において震度6強の地震が発生し、市内各地で大規模な土砂災害等が発生

件 名：	3.11 震災対応総合訓練について
担当課：	消防本部 救急救助課 救急救助担当 （電話：083-932-2604）

※1 【セルフレスキュー】

山口市消防本部が市民に提案する、身近な道具を使用して“自分が助かる（自助）”ための方法を学び、次に“誰かを助ける（共助）”ことに繋げるための救助方法で、中学生を中心に技術や知識を広めています。

9時50分頃から、セルフレスキュー技術を活用した自助・共助による救助活動を想定して、市民と学生消防団の連携によるセルフレスキュー訓練を実施します。

※2 【消防団救助部隊】

大規模災害時に消防団の特性を生かし、いち早く救助活動を行うため、消防団員で結成した部隊です。

平成26年度から、阿東統括、徳地統括、南統括と順次配備を進め、今年度、中央統括に配備したことから、市内4つの全統括エリアへの配備が完了しました。

9時55分頃から、消防団救助部隊による緊急車両が通行するための道路啓開を想定して道路啓開訓練を、10時00分頃から、津波により行方不明になった要救助者の救助を想定して、沿岸搜索救助訓練を実施します。

※3 【民間事業者との重機協定】

山口市消防本部では、大規模・多様化する災害への対応の一つとして、市内建設業者5社から災害時に重機とオペレーターを派遣していただく協定と併せて、市内レンタル事業者7社から優先的に重機を借り受け、災害現場に搬入していただく協定を締結しています。また、救助隊員が重機による救助活動が行えるよう、隊員の重機オペレーターとしての養成を進めています。

10時10分頃から、土砂災害により埋没した車両内に取り残されている要救助者の救助を想定して、消防団救助部隊と常備消防救助隊の連携による土砂埋没救助訓練を実施します。
--

※ 4 【都市型搜索救助技術】

大規模な自然災害・事故等に対応するための体制及び救助技術の総称です。山口市消防本部では、大規模な地震により座屈した耐火建物や倒壊した木造家屋の中に取り残された要救助者を救助するための、搜索から救助までの技術向上を目指し、訓練に取り組んでいます。

10時05分頃から、倒壊した耐火建物内に取り残された要救助者の搜索、救助活動を想定して、消防団救助部隊と常備消防特別救助隊の連携による都市型搜索救助訓練を実施します。

※ 5 【救急車医師同乗システム】

いわゆるドクターカーといわれるもので、済生会山口総合病院に本市の救急車を配備し、重症傷病者が発生した場合に医師が救急現場に駆けつけ、初期診療を行うことにより傷病者の病態悪化の防止と救命率を向上させることを目的としています。

10時20分頃から、大規模災害発生時に各災害現場で発生した多数の傷病者に対するトリアージや応急手当を想定して、ドクターカー主導による市民、消防団、救急隊が連携した応急救護所運用訓練を実施します。